

今月の話題
vol.13



応永13年（1406年）に真野と山中の両郷を領した岩松藏人義政。所領は没後、家臣の反逆により相馬家のものとなり、混乱の中、身ごもっていた姫君が大倉に逃れ、現在の「姫ヶ崎」で出産しましたが、母子ともに死去しました。悲劇を悼みこの姫が持っていた岩松家の持仏・十六善神の4柱を祭ったのが大倉山津見神社の始まりとされています。その後火事で焼失し現存する4柱は火事以降のものと伝わります。義政が鳥浜から下海老に上陸したという故事に因み、その地に「お下がり」を行っています。
(参考：大倉部落史／相馬家資料及び口伝による)

浜に下りて神事を行う歴史ある祭礼です

4月18日、大倉山津見神社で春の神事が行われました

地域が守り伝える「お浜下り」の伝統

はまくだ

※「おはまおり」とも呼ばれます

浜通り11市町村に伝わる祭礼「浜通りのお浜下り」は昨年「記録すべき国無形民俗文化財」に選定され、今後詳しい調査が進められることになっています。村の「お浜下り」はかつて三社で行われていましたが、現在も続くのは大倉地区のみです。大倉地区の皆さんは、原発事故の前年まで、毎年、大倉山津見神社から、南相馬市鹿島区の海老浜まで神輿を運ぶ「お浜下り」を行ってきました。近年は一部の区間以外は神輿を軽

トラックに乗せて下っていたそうです。道中では決まった場所で神様を休ませ、太鼓をたたき、短い神楽を踊ります。浜で神事を行った後は、鹿島御子（みこ）神社を経て一泊し、翌日大倉に戻ります。震災後は「お下がり」を休止し神事のみを継続。復活を模索する中、新型コロナの影響を受け、今年も神社での祭礼となりました。その中でも神社には多くの人が集い、「お下がり」の話題になると思ひ出話に花が咲きました。



海老浜で神を海水に浸し神輿に振りかけます。写真は昭和期の資料。「懐かしいなあ」の声が上がりました。真野ダム建設前は120戸あり3班に分かれて当番制で「お下がり」を行っていたそう。

目次 CONTENTS

- 2 今月の話題「大倉地区のお浜下り」
- 4 特集「飯館村ライスセンター」
- 6 飯館百景「いいたて春爛漫」
- 8 お知らせ「行政区長・副区長会議」ほか
- 9 お知らせ「村の新しい顔」
- 10 学びの広場「入学式・入園式」
- 12 いいたて便り
- 14 話題のパレット
- 15 そのころはっ／ふれ愛館だより
- 16 おしらせのページ
- 17 入札結果
- 18 いいたてDIARY／ラオス通信。
- 19 ふるさと資源／ひとのうごき
- 20 わくわくNEWS／飯館言葉の達人



今月の表紙

4月20日、佐須地区にオープンした観光農園「チューリップ・花農園」。ふくしま未来研究会、ホクショー、地域創造研究所が共同で取り組む「飯館村農地再生フラワーガーデンプロジェクト」の一環。46種類・約25万本のチューリップが一面に広がります。開園は5月9日までで期間内は無休。午前10時から午後4時まで入園できます。村外からも多くの方が訪れていました。問い合わせはホクショー-飯館事務所（☎0244-26-6244）まで。

つないできた祭礼を大切に伝えていきたい

地区の皆さんが協力して、「お浜下り」は続いてきました。震災後は浜の方の津波被害とその悲しみを思い、「お下がり」を見合わせ、神事だけが続けられました。また昨年と今年は新型コロナの影響で実施ができませんでしたが、コロナ禍が収まれば、浜の方の様子も見ながら、「お下がり」も再開できればと考えています。若い人へどう伝えていくか、つないでいくかが課題ですね。



郡之雄さん（大倉）
伝承によれば姫君の供をした桑折忠左衛門の子孫が改名し郡家になったと言われています。代々総代を務めています。



お礼と手作りの花は「お下がり」の道中、各地の人々にも分けられ、そこで受け取る「お下がり物」が宿代になりました。翌日戻ると、持ち寄ったご馳走を食べ、地元の人もお礼と花を持ち帰ります。今年の祭礼では串に刺した白い団子が振る舞われ、地区の方から「食べるど風邪をひかないと言ふんだよ」と教えていただきました。